マボウシの學名は *D. japonica*(Sieb. et Zucc.) Hutch. (p. 93) と改められた。併しこの兩屬の區別は下位子房及び果實が一個づつ分離して居るか，又は全く癒合して肉質球形の聚合果をなすかだけにあり，中井博士同樣私はこの兩屬を合一する說に贊成であり，尙命名上の問題に就ても私見があるが，それは項を改めて發表する積で居る。

Stearn 博士は 'Nomenclature and synonymy of *Allium odorum* and *A. tuberosum*' と題し Herbertia 11 : 226-245, pl. 263-267 (1946) に主としてニラの學名に就て書いて居る。先づ明かに區別できる二種の植物が *A. odorum* L. の名の下に混合されて居る事を述べ，その異同點を擧げた。一は *A. ramosum L.* で 6,7 月に開花し花被は長さ 6〜10mm で狹長斜上し，白色で背面中肋は紅色を帶び，雄蕊は花被の約半長，葯は中央以下で最も幅廣く，主に南部シベリア原產であり，他の *A. tuberosum* は 8〜10 月開花し，花は小形で平開し，花被は長さ 4〜7mm で白色，背面中肋淡綠又は帶褐色をおび，雄蕊は花被の 4/5 長，葯は上半に於て最も幅廣く，東南アジア原產である點等が主な區別である。次に學名の問題を論じ文獻をまとめてある。*A. ramosum* L. (1753) (p. 238) は Gmelin, Fl. Sibir. 1 : t. 11, f. 1 や Bot. Mag. t. 1142 等で圖解され，*A. odorum* L. (1767), *A. tataricum* L. f. (1781) 等はこの異名である。*A. tuberosum* Rottler ex Sprengel (1825) (p. 239) はニラ（韮）で，この學名の發表に至る迄の經緯や基準標本を檢した結果を詳しく述べその寫眞も揭げてある。又 *A. uliginosum* G. Don (1827), *A. tuberosum* Roxb. (1832) 等がこの異名である事を考證して居る。Prokhanov (1931) がニラに採用した *A. chinense* G. Don (1827) は *A. triquetrum* Lour. (1790) に基いたものであるが，花が 'dilute violaceus' とある點等符合せずよく分らぬ種類であると云ふ。尙 *A. Thunbergii* G. Don (1827) (p. 239) に就て述べ，この基となるべき Thunberg 標本室に *A. odorum* としてある 2 枚の標本は，一はニラであり，他はヤマラッキヤウ（*A. japonicum* Regel (1875) で，明かに後者を基準標本と考ふべきであるとなし，兩標本の寫眞が載せてある。終りに Regel の *Allium* 屬の節の區分は不滿足であり，特に Sect. Rhizirideum は 3 節に分けるべき事を提唱した。更に *A. odorum* group 及びこれに近緣の *A. inderiense* group に屬する凡ての種類の出典と檢索表を揭げてある。

**○赤の字のつく植物名**（前川文夫）

色としての赤は一番目立つもの故，これに基づく植物の名は多い。もつともこの場合には色彩上の嚴密なものではなくて，赤を中心にして一方は黃赤色へ，他方は紫色に迄及ぶ，むしろ多くは靑（綠）や白との對照の上から，比較的のものとして附けられて居ると見てよい。その中でアカメガシハ（芽），アカバナ（花），アカモノ（桃の意で僞果），アカネ（地下莖）などは着色部をその儘命名上にも使つて居つて端的にわかるし又響もよい。しかし單なるアカの接頭語のものはアカザ（若い葉），アカシデ（夏の若葉），アカショウマ（葉柄脚と莖），アカマツ（樹幹），アカソ（莖面ト葉柄），アカガシ（材幹の面，

或は芽立の毛),アカヤシホ(花),アカナス(果),アカヱンドウ(花と種皮)などは耳にはよいが說明には不足する。一方アカジクー,アカゲー,アカバー,アカミヤクーなどはまことに響きが悪い。新らしい名をつける時に音韻上の優秀と說明上の滿足との間の調節は存外にむづかしいものであることを痛感する。

### ○支那產のハクチヨウゲ(久内淸孝)

最近林業試驗場の林彌榮氏が同試驗場内で一種のハクチヨウゲを見出された。これは Handel-Mazzetti が *Serissa serissoides* Druce として Symbolae Sinicae で扱はれたもので,從來 *S. Democritea* Baill. の名で知られ,また Plantae Wilsoniae Vol. III に *Leptodermis nervosa* Hutchinson として當時新しく記載されたものである。一見,我國のシチヨウゲの樣に見えるが,柱頭は二叉し,蕚裂片は披針形で約3mm 邊緣に睫毛がある。和名は無い樣であるが都内に進出する樣になると和名が入用になる。

### ○Moricandia を橫濱でとる(久内淸孝)

余は橫濱市山手町で一種の *Moricandia* を得た(27 VII, 1945)。そうして,それは *M. arvensis* DC. であると考える。從來中國各地から知られて居る *Orchophragmus violascens* O. E. Schulz(=*M. sonchifolia* Hook.)オホアラセイトウとは別のもので,歐洲原產のものと思ふ。莖葉は廣楕圓狀で抱莖脚,殆んど全緣又は粗齒緣,葉身は長さ 2-18cm. 幅 2-7.5cm. 兩面無毛,下面帶白色。花は紅。角果方形長さ約 9.5cm 先端は方形を呈せず嘴狀,嘴狀部の長さ約 2cm。種子は汚褐色,やゝ柱狀,長さ 2mm(角果の方形を呈するは,各心皮が弧狀を呈せず,其中肋を境として各半が直角に近く彎曲し,各心皮の中肋と,兩癒合緣とで四稜を現すによる。果實裂開に際しては嘴狀部を殘し,心皮のみ離脫す,故に嘴狀部は兩癒合緣のみにより構成せらる,當然のことながら附記す)。和名は未だなきものゝ如し。依て屬名に名を殘したる S. Moricand を記念して,モリカンドソウとするか,又は同氏の國籍に因みイタリアソウとでもしたらよいと思ふがいかゞでしよう。實物は東京科學博物館の腊葉室にをく。

和名を有する近緣のものとしては,中井博士が植物學雜誌 37 (1923) p. 69 で,朝鮮のものに與えたオホアラウセイトウがある(北川博士は滿洲國植物考にハナダイコン,ハナスヾシロを併記されたが,この二名は植物名彙によれば *Hesperis matronalis* Linn. の名であるから,同一物であることが證明されない限り用ひたくない)が,今余がこゝで紹介するものは,出來ることなら,他屬と混同されない樣な名が欲いので,敍上の樣な新名を考へたのである。

### ○ウスイロヤクシサウ(新品種)(津山尙)

1945 年 11 月 15 日,武州天覽山に於て資源科學研究所植物學部の一行が採集を試みた際,頂上附近に於てヤクシサウの花色が極淡黃色で,あだかもアキノノゲシのそれの如きものを二株發見した。その時一行中の籾山泰一氏とはかり,forma *pallescens*